

# 面会禁止・マスク徹底それでも

## クラスター発生「まさか」

新型コロナウイルスの国内感染が「第3波」とも言われる急拡大を見せ、クラスター（感染者集団）も各地で相次いでいる。特に重症化リスクの高い高齢者を抱える施設は警戒を強める。今夏、入所者への感染が広がった東京の福祉施設の施設長が、「教訓にしてほしい」と経験を語った。

### 22人感染 東京の老健施設

東京都足立区の住宅街の一角。老健施設「水野介護老人保健施設」の1階ロビーで10月末、入所者の家族

がパソコンと向かい合っていた。約210人の入所者が過ごす2階以上は家族を含め今も立ち入り禁止だ。

家族は画面越しに「オンライン面会」をしていた。

3カ月ほど前、それは突然やってきた。都内が感染の「第2波」に見舞われていた8月16日。入所していた80代の女性に熱が出た。3日後に肺炎の症状もみられ、感染が判明。すぐに入院した。「まさか」。施設の常勤医師でもある施設長の岡田正彦さん(74)はすぐには信じられなかった。施設は当時も面会を禁止

4階廊下にバリケードをつくり、移動を制限した(施設が撮影した動画から)



拡大。3週間で入所者18人と職員4人の計22人の感染が確認された。保健所の調べでも、感染経路は特定できなかった。ただ、感染者たちは同じ食卓や近くで食事をしていました。

対策として重視したのが、食事の際の「密」を避けること。職員1人が一度に複数の人を介助していたが、1対1に改めた。

入所者や職員の移動も制限。4階にはバリケード代わりに廊下にベッドなどを置いて行き来を減らした。

だが、対策を強めるほど職員の負担は増した。4階は担当職員4人が感染したため、勤務シフトは「ギリギリだった」。認知症の人

の多くはマスクを着けたがらず、消毒液を飲み物と勘違いする人もいて置きっぱなしにできない。1人で歩き回る人への対応などで、職員の休憩や睡眠の時間が減った。

「乗り切れたのは、みんなが感染を止めようという雰囲気があったためだ」と岡田さんは振り返る。

別の区画や階に感染は広がらず、9月24日に「終息宣言」を出した。だが、入所者4人が亡くなった。岡田さんは「感染が起きたときの対応を考えておくことが欠かせない。経験を今後に生かしたいし、ほかの施設も参考にしてもらえたら」。(木村浩之)